# たかさご新聞

発　行
高砂大学校同窓会
会長　泉屋和雄
〒920-0901
金沢市彦三町1-15-5
金沢中央公民館2F
TEL(076)261-8101
FAX(076)261-8149
(HP)http://www.takasagoob.net

## 高砂大学校１２０期生向け同窓会説明会

十月十九日～三十日の期間に１２０期生を対象とした同窓会説明会と入会相談会を、組別にそれぞれ三回開催しました。十一月十六日～二十日には各クラスの役員選出への立ち合いも実施しました。多くの皆さんが同窓会に入会いただき、クラス活動を行っていくために、今後もサポートをしていきます。

**同窓会Q＆A**

**Q１．クラス会とは**

大学校終了後、同じ曜日（月、水、金）のコースに在籍していたメンバーで発足する、同窓会活動の基本単位です。

**Q２．クラス会の活動とは**

定期的に正副班長会議や役員会を開催して、クラス運営を行います。行事としては、食事会、バス旅行、演芸発表会参加など自由に決めます。

**Q３．高砂大学校同窓会とは**

大学校を卒業したメンバーで構成されます。各クラスから選出された役員によって運営され、色々な行事を実施しています。

**Q４．サークル活動への参加**

サークル活動に参加するためには、同窓会への入会が必要です。正式な活動は四月からですが、多くは「見学」等を受け付けています。

## 高砂わくわく講座

十月三十日、第３回：輪島朝市『失っても、なおつなぐもの』が開催されました。

「輪島朝市を応援する会」事務局長の橋本三奈子氏と同事務局の小坂準也氏をお招きし、能登半島地震を乗り越えて歩み続ける輪島朝市の姿をテーマに講演が開催されました。

千二百年の歴史を持つ輪島朝市は、令和六年能登半島地震と大規模火災でなりわいの場を失いました。

震災で自らの店舗や住宅も被災・焼失した橋本氏が、現地とLINEで連絡を取り合いながら「出張輪島朝市」の開催に奔走した経緯が語られました。また、かつて自衛隊員として輪島に駐在していた小坂氏は、埼玉からの支援を経て水産会社で修行を積み事務局に参画したとのことです。



講演中の橋本氏と小坂氏

二〇二四年三月の金石港での開催をはじめ、全国各地での累計二百七十回を超える開催や、ワイプラザ輪島店での常設展開など、途切れなく灯を守り続ける取り組みが紹介されました。

今後は「輪島朝市復興協議会」を中心に、令和十年の大屋根施設への移動、令和十二年の本町エリア新拠点への移行を見据え、年間百万人の観光客対応を掲げた創造的復興へ向けて歩みを進めています。

## 秋の日帰りバス研修旅行

十月二十七日、四コースに分かれて、同窓会主催の日帰りバス研修旅行が開催されました。

・岩の原コース
・安曇野コース
・北近江豊臣兄弟コース
・黒部峡谷コース

### 岩の原コースに参加して

二一五期一組　坂井茂夫

待ちに待った秋の日帰りバス研修旅行「岩の原コース」に、四十一名で参加しました。行きのバスでは雨にあたり天気が心配でしたが、現地では傘いらずの天気でした。

最初の訪問地は上越市の「岩の原葡萄園」です。赤ワイン用ブドウ「マスカット・ベーリーA」を一九二七年に生み出した川上善兵衛による葡萄園で、明治時代建造の第二石蔵を見学し、雪国での葡萄酒作りの歴史を学んだ後は、お目当ての葡萄酒の試飲を楽しみました。

次の「高田城三重櫓」は平成五年の再建ですが、本格的な木造の天守閣と言ってもよいほどの見事な造りでした。慶長十九年（一六一四年）、徳川家康の六男・松平忠輝が自然堤防を利用して築いた広大な城で、前田利常や上杉景勝など十三大名の天下普請による加賀藩との力関係も学べました。

隣接する「上越市立歴史博物館」では、奈良時代の国府設置から江戸時代の小藩分割に至る「越の国」の変遷を知り、百万石の加賀藩目線とは異なる越後の歴史を深く理解する貴重な機会となりました。


岩の原コース参加者のみなさん

老舗「松風園藤作」で新潟の旬の会席料理を堪能した後は、最後の訪問地・春日山林泉寺へ。上杉謙信が幼少期に学んだこの寺で、住職の説明を受け、謙信直筆の「第一義」「春日山」の扁額などを拝観しました。

見どころも味わいどころも豊富で、歴史好きにはぜひお勧めのコースでした。

## 高砂かがやき講座開始

同窓会副会長
一二三期二組　藤本新一

同窓会にはすでに講座として、まずは「健康講座」があり、次いで「わくわく講座」が本年創設されました。それぞれ興味あふれるテーマで、好印象をもって進めています。

それらとは違い、本講座は金沢市がその政策を発信しているテーマ（本年は百十二テーマ）から選んで同窓生にご案内していければと考えて企画されました。

第一回は十一月四日、「金沢の食文化 ～五感にごちそう かなざわ～」をテーマに、金沢市産業政策課の中山晶氏を講師として始まりました。講師は自己紹介で、新採ではなく海外勤務（東南アジア）を経験されたとのことです。当時の食と金沢のそれとの間に大きな違いを感じ、今の立場で一層、金沢の食文化の奥深さを知ることができたとお話しされていました。

お話の中身は、これまでに見聞したことと併せて江戸時代からの歴史に重ねて丁寧に説明していただき、改めてその素晴らしさに感じ入りました。

個人的には、今回の資料の中で「氷室まんじゅう」の断面写真がたくさん載っており、正直言って驚きました。日頃見慣れた氷室まんじゅうにも、お店ごとの作り方の違いが表れていて大変興味深く拝見しました。

次回は十二月十六日に「工芸のまち・金沢」をテーマに開かれる予定です。どんなお話になるのか非常に楽しみになってまいりました。


氷室まんじゅうの断面

## 彦三クラス会の食事会を開催

同窓会副会長
一一八期二組　駒　実

十一月十日（火）、卯辰山の和食レストランにて食事会が開催され、彦三クラス会から十八名、同窓会スタッフ九名が参加しました。

彦三クラス会とは、高齢化や会員減少により維持・運営が難しくなったクラスに代わり、同窓会が運営を引き受けている集まりです。

冒頭に同窓会会長が挨拶をし、それぞれ自己紹介を兼ねて和気あいあいとした雰囲気でスタートしました。

ほとんどの方がサークル活動に参加され、積極的に社会とのかかわりを持ち、サークル仲間とのおしゃべりなど楽しい時間をお過ごしのようです。若々しく年齢を感じさせない先輩方との交流は、私たちに勇気や元気を与えてくれました。

「また機会があれば、ぜひ参加したい」とのお声をいただき、来年度も開催予定です。


彦三会のみなさん

## 赤い羽根共同募金

福祉・渉外担当

十月一日に赤い羽根共同募金街頭活動の出発式が、松ヶ枝福祉会館で各関係者列席のもと行われました。

赤い羽根共同募金は、福祉団体の助成や募金運動を推進するための経費、そして災害支援として使われています。赤い羽根の運動には、「たすけあい」「おもいやり」「しあわせ」の三つの願いが込められています。この三つの言葉が、時代の流れの中で、少しずつ失われているように感じられます。弱者にもっと温かい目を向けられる世の中になればいいと思います。

香林坊大和前・武蔵ヶ辻エムザ前のそれぞれの街頭に立ち、道行く一人一人に会員が笑顔で一生懸命に声掛けをし、募金をお願いしました。募金活動の参加は初めてという会員の方からは「とても有意義な体験ができました」との声を聞き、また、ある会員は「今度からは通り過ぎずに募金します」と話していました。このように、募金への「たすけあい」「おもいやり」の気持ちがこれからも続いていくことを願うばかりです。

募金活動に従事されたボランティア会・同窓会会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

QR コードで
ホームページ

高砂大学校同窓会

## 新春の集い

日時：令和９年１月１４日（木）午前１１時～
場所：ホテル金沢
**申込受付：令和8年11月4日（水）～12月14日（月）**
会費：￥9,000-

石川県知事
**山野之義氏**
懇話会のお知らせ
**日時：令和8年12月5日（土）**
**時間：午後2時～3時**
**場所：彦三館3F大研修室**
※同窓会会員限定

**高砂かがやき講座**
第２回　工芸のまち・金沢
～金沢の工芸を知ろう～
日時：12月16日（水）
13時30分～15時
会場：中央公民館彦三館
視聴覚室
講師：多長希美氏

**高砂かがやき講座**
第３回　マイナンバー制度
～新機能や注意点～
日時：1月13日（水）
13時30分～15時
会場：中央公民館彦三館
視聴覚室
講師：神田現氏　山上洋子氏

**高砂わくわく講座**
第６回　高齢者世代の
年金はどうなるの？
日時：1月20日（水）
13時30分～15時
会場：中央公民館彦三館
視聴覚室
講師：金沢北年金事務所担当

## 五百五十五回目の句会を迎えて

高砂雪椿句会　会長　一〇八期二組　宮本順治

雪椿句会は十一月の句会で、発足以来五百五十五回の節目を迎えることができました。これもひとえに、会の運営にご尽力された先達やＯＢ、会員皆さまのご支援、そして講師のご指導の賜物と、厚く感謝申し上げます。

さて、私たちは毎月第一月曜日の午後、講師の南邦夫先生をお迎えし、女性二名、男性四名のメンバーで活動しています。俳句は五・七・五の十七音の限られた字数の中で自由に表現できる詩の形式です。この短い言葉の中に、心を動かされる景色や出来事などを言い表す魅力があり、昔から多くの人々に親しまれてきました。

句会では他の参加者の作品からさまざまな表現方法を学べるため、自分の作品を向上させるヒントが得られます。また、講師による選や添削によって専門的な指導を受けることで、不思議と「俳句らしく」なり、知らず知らずのうちに身につき、やがて成長を「実感」するようになります。

作品に込めた情景を会員から解説してもらったり、感想を述べたりする自由な雰囲気も魅力です。毎月三句の作句に意識を集中すると、何かしら新しい言葉と自分を発見できます。

「俳句の楽しみは句会にあり」――句会に参加して、そのことをぜひ実感してみてください。

### 高砂雪椿句会

日時：毎月第一月曜日
一三時～一六時
月会費：一〇〇〇円
入会金：一〇〇〇円


雪椿句会のみなさん

## 高砂ひまわり会

一一一期二組　碓井多恵子

「第四十八回高砂生きがい演芸発表会」が、十月十六日開催され、ひまわり会は、沖縄民謡「安里屋ユンタ」を踊りました。

世界遺産・首里城が、令和元年十月に火災で焼失してから復元が進められ、七年の時を経て、今年十一月二十三日に復元された首里正殿が、一般公開されました。この節目の年に、「安里屋ユンタ」を踊れることを、大変うれしく思いました。

普段着ることのない沖縄民謡の衣装に、サージと呼ばれる紫色の布を巻き、ハイビスカスの花をつけた女性役と、ユンタ太鼓を持つ男性役が踊りを盛り上げました。みんなで練習を頑張った、ご褒美のような衣装です。顔も心も華やぎました。

今の会員は十人です。そのうち二人は同窓会の仕事も頑張っていて、練習に参加できない日もあります。

### 高砂ひまわり会

日時：毎週金曜日
一三時～一五時
月会費：二五〇〇円
入会金：なし


ひまわり会のみなさん

## 八周年を迎えたオカリナクラブの旅

高砂オカリナクラブ　会長　一〇二期三組　木下幸子

オカリナクラブ員二十三名は猛烈な雨の中、加賀藩十一代藩主となった治脩が幼少の折に住んだ高岡市伏木の勝興寺が国宝となったのを機会に、「勝興寺見学と近隣の内川十二橋巡りの旅」をしました。

住職が還俗して加賀藩主となった由緒ある寺は、加賀藩から継続的な経済援助を受け、大広間や式台、書院など整備が進められ、格天井は華やかに輝いて我々を迎えてくれました。国宝のない金沢から行った身には圧倒されました。

新湊大橋は日本海最大の斜張橋で、車道と「あいの風プロムナード」という歩行者通路になっており、エレベーターで約四七メートルの高さにある下層の歩行者通路へ登り、四八〇メートルを歩きました。晴れた日は階下に立山が見えるのですが、残念ながら雨のため立山は見えませんでした。

美味しいランチの後、新湊から東西約三四二〇メートルを結ぶ運河である内川を船に乗って、十二橋巡りをしました。船が出発すると学習しているのでしょうか、カモメが寄って来て、窓から「かっぱえびせん」を差し出すと上手に食べます。川べりには民家が立ち並び、両岸には漁船が繋留される風景は「日本のベニス」と呼ばれます。スペインの建築家がデザインしたベンガラ色の屋根のある「東橋」や、手をかたどった大理石彫刻四基の「山王橋」が見えると、「わ～」という歓声が上がりました。


オカリナクラブのみなさん

日本三大仏の一つと言われる「高岡大仏」にお参りしました。美男でおわします。境内にある「時鐘」は去る昔、「寺島蔵人が高岡奉行の時に作成された」という看板を見て、「へ～あの金沢の寺島蔵人は昔、高岡の奉行やったんや」と感心したりしました。四百年にわたり高岡で育まれた伝統の鋳物製造「能作」のショップを見学しました。受け継がれてきた職人芸に感心しきりでした。

「今日が私の人生の一番若い日。明日になれば一日歳を取る。だから今日という日を明るく、輝いて、元気に生きよう！」をモットーに、これからもオカリナを通して学びながら、楽しく老いていきたいと思いました。

## 大切な「聞き手」の方々がいてこその朗読

高砂語り部九官鳥の会　会長　一一五期一組　竹田啓子

私たちのクラブは、午前組と午後組に分かれて、それぞれが講師の八田静輔先生のご指導を受けながら、自分が選んだ作品の朗読練習をしています。そして交互に年三回の朗読発表会に挑んでいます。

「朗読」は、自分で楽しむ「音読」とは違い、聞き手にいかに作品へ共感してもらい、楽しんでいただけるかが重要です。そのためにも、皆さんに聴きやすく、わかりやすく、心を込めて語りかけることができるよう練習を重ねています。

先日の「高砂生きがい演芸発表会」では、朗読劇「安珍と清姫物語」を舞台で披露しました。また、十月二十六日には彦三館第一研修室で、午前組が出演する「秋の朗読発表会」を開催しました。いずれも皆さんに楽しんでいただけたようで、ひとまず安堵しています。

これからは「ランチタイムコンサート」への参加を考えたり、次回は午後組による「春の朗読発表会」を催したりと、新たな挑戦が続きます。毎日作品の朗読練習をしている努力家もおりこれからの成果が楽しみです。

皆さんの応援やご参加をよろしくお願いいたします。



語り部九官鳥の会のみなさん

## 一〇九まれの会　日帰り研修旅行

一〇九期二組会長　塚西協二

一〇九期二組・三組合同で十八名の参加となり、金沢駅西口貸切バス駐車場を八時三十分に出発しました。

当日は大雨警報レベル三の天気予報でしたが、最初の見学先である長浜市の国友鉄砲ミュージアムに着いた時は雨も止んで一安心。

日本への鉄砲伝来は天文十二年八月二十五日。種子島の門倉岬に一艘の中国船が嵐のために漂着し、乗っていたポルトガル人から初めて日本に二挺の鉄砲が伝えられたとされます。以降、国友、堺、根来など各地で鉄砲が作られるようになりました。鉄砲とともに伝わった新しい文化、特にネジの技術は日本の歴史を大きく変えました。種子島に伝来した鉄砲は、伝来の翌年に当たる天文十三年から国友でも作られ始めました。最盛期には七十軒の鍛冶屋と五百人を超す職人がいたとされ、火縄銃ができるまでの工程を特に興味深く見学し、心を惹かれました。

次の見学先である「豊臣兄弟！北近江長浜大河ドラマ館」では、番組の衣装や小道具の展示、特集パネル、ここでしか見られないオリジナル映像などを通して、大河ドラマの魅力をより深く知ることができました。

次に向かった長浜別院大通寺は真宗大谷派の別院です。伏見城の遺構と伝わる本堂や大広間は重要文化財で、絢爛豪華な桃山文化が随所に垣間見られました。また、羽柴秀吉が築城した長浜城の大手門を移築したとされる台所門など、多くの建造物が文化財に指定されていました。

次の訪問先は黒壁スクエアです。北国街道を中心に、明治の風格ある建造物にガラスの魅力を取り入れた三十館からなる総称が黒壁スクエアです。一号館は明治三十三年に建てられた旧百三十銀行長浜支店建物を活用した、シンボル的存在となっています。

旅程を通じて、長浜城下町の歴史に関する参加者の知識や教養を深めることができました。


109まれの会のみなさん

## 俳句・短歌

### 石蕗句会

放鳥の朱鷺の元気に小春かな　吉隆
父母囲む座に降り注ぐ小春の陽　眞素美
美しく呼び合うように木の葉舞う　素子
木の葉舞う襟をかけ寄せバスを待つ　順子
風吹いて舗道に乾く木の葉音　翠風

### 雪椿句会

人住まぬ家に数多の熟柿かな　義明
秋晴や保存樹巡り満喫す　さち子
秋雨や軒が取り持つ二人仲　重子
あの暑さ何だったのか柿実る　輝子
犀川の湖畔歩きや飛蝗飛ぶ　まり子

### ＯＢ短歌会

酒井高二
あと五分そんな思いで目を閉じる次に目覚めれば一時間後さ
宮本順治
湖面打つ魚の波紋の広がりぬコウノトリ一羽剥製のよう
宮本房義
昔話に笑いこけつつ夜を明かす夫待つ我が家に土産を買って
花岡鉄男
吹き抜ける秋風の中のジャズ演まちかどライブに我も手拍子
斎藤きよみ
蒼天に半ば溶けいる昼の月時を重ねて名月となるむ

同窓会仲間の
作品を見に行こう

①武蔵地下クロスピア
12月～1月
高砂大学校同窓会
寿雪書道会
創作絵画会
マクラメサークル

②金沢医療センター
(11/20～1/20)
マクラメサークル